

ちゃんねる

平成29年度 No.4 2018/3/16

一年を振り返って

副会長 下田 亮

(大仙市立太田南小学校長)

年度末を迎え、会員の皆様におかれましては、お忙しい毎日を過ごされているかと思えます。各校ともにインフルエンザの混合流行に悩まされた年でもありましたが、会員の皆さん、体調管理には十分に留意されてこれからの大切な時期を乗り切ってください。

さて、今年度は、南外中学校を会場に研究大会が行われた年でありました。授業演示は、2年生の美術「鑑賞」ということで、視聴覚機器の効果が示された、題材のねらいに迫るすばらしい授業でした。視聴覚機器の使用にあたっては、授業のねらいを達成するためにいかに効果が期待されるか、その必然性の視点を欠いては意味がありません。本授業は、絵画作品の比較鑑賞を通して、対話的な学びを促し、対象を深く感じとるねらいを達成するものでした。会場校としてお引き受けいただいた南外中学校には、感謝申し上げます。

また、午後の研修会では、赤堀侃司氏による講演を拝聴いたしました。次期学習指導要領に盛り込まれた「プログラミング教育」の背景や実際に学校現場で進めていく上での教育課程上の課題や留意すべきことについて、イメージをもつことができました。さらに、その後のロボットカーを使った実技演習で、プログラミングの楽しさや難しさを体感できました。理論を学び、体験という自然な流れの研修会でした。研究部、研修部ともに大会に向けて、しっかりと準備を進めてくれたことが実りある大会の成功につながったと思います。ありがとうございました。

さらに、前後しますが、夏季研修会では、「授業のねらいを達成するための機器の活用方法」と題して、タブレット型顕微鏡や電気ペン、水玉ガラスなど、ICT機器だけでなく、目新しい教材・教具についても体験できました。このような機会がなければ、知ることができませんし、模擬授業形式で楽しく研修できた有意義な研修でした。

振り返ってみれば、「教科や領域のねらい達成のための手だての一つとして、視聴覚教材・視聴覚機器の活用の可能性を探る」という基本的なスタンスを保ちながらも、時代の要請に対応した「プログラミング教育」や「ICT教育」にもしっかりと焦点をあてた本研究会の一年だったと感じています。

最後になりますが、視聴覚研究会を3年間に渡ってリードして下さった進藤正弘会長さんがこの3月でご退任されます。会長さんには、桜木内大会、南外大会を成功に導いてくださいました。また、新たに研究の視点を加えた研修の在り方や「プログラミング教育」や「ICT教育」に率先して取り組まれるなど、これからの視聴覚教育を追究されたリーダーシップに改めて感謝申し上げます。今後とも、本会のさらなる発展を応援していただければと思います。お世話になりました。

今年度を振り返って - 各専門部より -

研究部より 研究部長：岸 順一郎 (大仙市立大曲小学校)

今年度は研究大会の年でした。大会に先立って研究テーマの確認と、視点の設定、付随して「情報活用の実践力」の内容やキーワードを一覧にした本研究会版の試案を作成しました。(H29ちゃんねるNo.1に記載済み。本研究会のホームページで閲覧できます)。大会当日の授業提示は美術「鑑賞」でした。作品の奥深さにどんどん気づきを深めていく生徒の姿に感心させられ、情報活用の実践力を養う場としての提案は続く協議会での活発で充実した討議に結び付きました。実り多い授業を提示して下さった南外中学校後藤先生に感謝します。なお情報活用能力のとらえについて、今後さらなる研究が必要だと思います。

一方「実践事例収集」の方は残念ながら今年度も掛け声だけに終わってしまいました。インターネットの情報検索で大概事足りる今日、会員間で敢えて「教えてあげたい」「教わりたい」といった思いは小さくなっているかなあと感じたりします。今年度の研修部の取り組みの充実を見たときに、研究部としてもAI、ロボット、プログラミング教育など今日的な課題を視野に入れながら、会員の興味やニーズとのすり合わせを考える局面にあるのかなと考えております。

研修部より 研修副部長：今野 俊 (美郷町立仙南小学校)

今年度は南外中学校で研究大会が開催されました。これまでの会員の皆様の研修の成果が活かされた素晴らしい研究大会になったのではないのでしょうか。ご協力いただいた会員の皆様、南外中学校の職員の皆様には大変感謝しております。

授業研究会の後にはレゴを用いたプログラミング学習の講座があり、プログラムの基礎を用いてロボットを動かすという内容でした。この先、AI(人工知能)が発達するにつれ人間がする仕事が減っていくと懸念されています。AIより人間が優れているのが新しいことを創造する力です。プログラムできることがこの先求められている力の一つになるそうです。

科学の発展とともにできることが広がってきました。今後、視聴覚研としてできることを幅広く捉え、学習へどのように取り入れていくのか、どのような方法で取り入れるのかなどを研修していくことが大切であると考えられます。

再来年度の研究大会に向けて会員の皆様の研修が実りある物になることを願っています。

広報部より 広報部長：後藤 晃裕 (大仙市立藤木小学校)

今年度の活動は、会報「ちゃんねる」の発行と視聴覚研究会ホームページの更新でした。昨年好評だった「ちょこっと」情報メールは、提供すべき情報が絞り込めないまま配信できずに終わってしまいました。申し訳ありません。

会報の発行については、南外中学校での研究大会がありましたので、今号を含め4回行いました。夏季研修会や研究大会の情報をタイムリーにお届けしたつもりです。原稿をお引き受けくださいました皆様、ありがとうございました。ホームページの方は、随時会報の掲載をすることができました。夏季研修会や研究大会の様子、指導案などについても、他部門と連携をとって掲載しようとして計画中です。「ちょこっと情報メール」については、会員の皆様のちょっとした疑問等をリクエストいただければ、発行のヒントになりますので、ご要望や感想メール等、是非よろしく願いいたします。

※広報部メールアドレス jim.shichokaku@gmail.com

※視聴覚研究会ホームページ

<http://www.edu.city.daisen.akita.jp/~senkyouken/siryousitu/sityoukaku/>

検索サイトより、「大曲仙北視聴覚研究会」というキーワードで出てきます。